

知の玉手箱 2012

Best 27+1 Book Reviews by The Students & Others
at Mii Campus in Kurume University

久留米大学
御井図書館 編

知ってください。読書の楽しさ。

<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/milib/>

『知の玉手箱 2012』 発刊にあたって

「幸せのカタチ」を模索する

「今、あなたは幸せですか？」と尋ねられたら、皆さんはどのように答えるだろうか？昨年起こった未曾有の大震災と原発事故以降、日本人の多くがこれからの「生き方」や「幸福」について考えるようになったと言われている。当たり前と信じてきた今ある日常の暮らしが、一瞬のうちに崩壊したあの悲劇から、私達が学んだことは「今日と同じ明日」が続くことが、実は何物にも代えがたい、幸せであるという気づきであった。

折しも昨秋、ヒマラヤの小国でありながら、国民の9割が幸せであると感じるブータン国民を統治する若き国王夫妻が来日され、GNH（Gross National Happiness／国民総幸福）という指標がにわかに注目されるようになった。GNHは、経済的豊かさの指標とされてきたGDP（Gross Domestic Production／国内総生産）やGNP（Gross National Production／国民総生産）に代わる、先進国がこれからの持続可能な社会づくりの施策とすべき重要な指標と目されている。

政府も、日本独自の「幸福度指標」を作ろうとしており、私も昨年末、OECD（経済開発機構）等との共催で政策研究大学院大学において開催された「幸福度に関するアジア太平洋コンファレンス」のメンバーの一員として参加して、「幸せのカタチ」を模索する作業に加わり、コメントを求められ、とうぜん「何を幸福」と感じるのかは、ライフステージや置かれている状況あるいは個人の価値観などから人によってさまざま異なり、簡単に単一指標としてまとめられない。

ただ大切なことは、世界的な経済不安が浸透する中、また超高齢社会による問題の深刻度が増す「明日が見えない社会」の中で、これからの日本をどのように、「幸せ社会」をみんなで作っていくか、一人ひとりのレベルで模索し、それを互いに広く議論していくことが必要と思われる。

「幸せをカタチ」にする作業は、すべての学問を包摂する必要がある。その意味で、本学の学生諸君には、人文科学、社会科学、自然科学をカバーする総合大学としての図書館に蔵する書物をぜひともいろいろ紐解いて、「幸せ探し」を積極的に自分の問題として取り組んでくれることを期待する。

『知の玉手箱 2012』 編集委員
久留米大学 文学部
教授 津田 彰

はじめに

文芸 (小説)

エッセイ

社会・政治・時事・ノンフィクション

- p.1 『知の玉手箱 2012』 発刊にあたって
津田 彰 (久留米大学文学部)

- p.3 『お伽草紙』 / 太宰 治 著
●藤 裕樹 (法学部学生)
『水滸伝』 / 北方 謙三 著
●橋口 彩乃 (法学部学生)

- p.4 『はじめての文学 村上春樹』 / 村上 春樹 著
●高口恭弘 (法学部学生)
『野ブタ。をプロデュース』 / 白岩 玄 著
●三村 良彦 (法学部学生)

- p.5 『グレース』 / 源 孝志 著
●中嶋 理沙 (法学部学生)
『ポッコちゃん』 / 星 新一 著
●久野 裕加 (法学部学生)

- p.6 『流星ワゴン』 / 重松 清 著
●高橋 尚平 (法学部学生)
『手紙』 / 東野 圭吾 著
●可村 優太 (法学部学生)

- p.7 『オーダーメイド殺人クラブ』 / 辻村 深月 著
●佐渡島 麻倫 (文学部学生)
『鴨川ホルモー』 / 万城目 学 著
●玉田 顕士 (法学部学生)

- p.8 『地球最後の 24 時間』 / 貞次 シュウ 著
●高村 誠 (法学部学生)
『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』 / 岩崎 夏海 著
●矢野 輝 (法学部学生)

- p.9 『けもの道』 / 藤村 忠寿 著
●吉木 裕信 (文学部学生)
『裁判員 X の悲劇：最後に裁かれるのは誰か』 / 青沼 陽一郎 著
●深川 良介 (法学部学生)

- p.10 『生きながら火に焼かれて』 / スアド 著
●小林 瑞紀 (法学部学生)
『夜回り先生』 / 水谷 修 著
●川原 拳人 (法学部学生)

- p.11 『甲子園への遺言：伝説のコーチ高島導宏の生涯』 / 門田 隆将 著
●田中 敦拓 (法学部学生)
『日本人が知らなかったチベットの真実』 / ペマ・ギャルポ 著
●仮屋崎 康太 (法学部学生)

自己啓発

図書館情報学

- p.12 『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』
／平川 秀幸 著
●辻本 尚弥 (健康・スポーツ科学センター)
『ザ・シークレット』 / ロンダ・バーン 著
●江口 真子 (法学部学生)

- p.13 『日本男児』 / 長友 佑都 著
●高沢 大成 (法学部学生)
『マネジメント：基本と原則「エッセンシャル版」』 / P.F.ドラッカー 著
●樋口 葵 (法学部学生)

- p.14 『戦国武将の名言に学ぶ』 / 武田 鏡村 著
●馬場 美保 (商学部学生)
『伝える力：「話す」「書く」「聞く」能力が仕事を变える』 / 池上 彰 著
●吉開 香織 (法学部学生)

- p.15 『英語と日本語のあいだ』 / 菅原 克也 著
●安藤 裕介 (文学部)
『「不良」社員が会社を伸ばす』 / 太田 肇 著
●奥井 秀樹 (商学部)

- p.16 『おかしな本棚』 / クラフト・エヴィング商會 著
●辻本 尚弥 (健康・スポーツ科学センター)

スペシャルコラム

- p.17 医療関連書籍レビュー
- p.18 現代日本の「医療現場」「福祉・社会保険制度」
- p.19 を読み解く 5 冊
●満園 良一 (健康・スポーツ科学センター)
『ルポ医療事故』 / 出河 雅彦 著
『医療の限界』 / 小松 秀樹 著
『医療・保険・福祉改革のヒント』 / 水野 肇 著
『医療と福祉の経済システム』 / 西村 周三 著
『公平・無料・国営を貫く英国の医療改革』 / 竹内 和久・竹之下 泰志 著

巻末特集

巻末から読むページ

学生生活を確実に充実させる第一歩、教えます！

図書館利用が 10 倍楽しくなる
「Web サイト」活用術

本書で紹介された書籍類はすべて
久留米大学御井図書館に所蔵されています



「日本の昔話」を新たな解釈で描いた ユーモアあふれる短編集

●藤 裕樹（法学部学生）

たしかに「人間失格」は名作である。だが、太宰治の作品は「人間失格」のような暗い作品よりもユーモアある 人を楽しませる本が多く、「人間失格」のような作品はむしろ例外的だということを知って欲しくて「お伽草紙」を紹介したいと思った。

本作は「日本の昔話」を太宰治なりの解釈やセンス溢れるユーモアで面白おかしく描いたり、時には話の結末を本家以上に残酷に変えてしまうなど、新たな解釈で描かれた短編小説集である。中でも私がお薦めなのは「カチカチ山」。自分（狸）を捕まえて食べてしまおうとしているお爺さんとお婆さんから逃げるために、狸はお婆さんを引っ掻いて逃げ、その敵を打とうとお爺さんが兎に相談して懲らしめる…というお話のだが、ここに出てくる兎には本家版のような可愛らしさはなく、残酷な登場人物として描かれる。だが、本家以上にこの物語の本質を炙り出した面白い作品である。ぜひ皆に読んでいただきたい。

『お伽草紙』

太宰 治 著／集英社 刊

¥1,350（税別）



原典を読んだ人でも楽しめる 北方版・水滸伝

●橋口 彩乃（法学部学生）

中国の四大奇書の1つであるとされる「水滸伝」を原点としながら、北方謙三が全体を再構成した作品。

舞台は、12世紀初頭の北宋末期の中国。皇帝の浪費や官僚の悪政など、政治の激しい腐敗により国民が疲弊する中、北宋を倒すべく、宋江を中心とした108人の英雄たちが梁山湖に浮かぶ盗賊の山寨を奪取し「梁山泊」と名付けて立ち上がる。北方版水滸伝には、オリジナル設定がいくつもあり、その中に「青蓮寺」という組織が登場する。青蓮寺は梁山泊壊滅のために動くが、ただの悪役ではなく、青蓮寺も梁山泊もお互いの『正義』を掲げて戦っていく。他にもオリジナル設定で登場する「楊令」という人物が、宋江亡き後の梁山泊を引き継いでいく『楊令伝』という作品もあり、原典を読んだ人にも楽しめる作品だ。

ちなみに、水滸伝は19巻、楊令伝は15巻と巻数は多めだが、あっというまに読み終わるだろう。なお、楊令伝の続篇『岳飛伝』の執筆も予定されているらしい。

『水滸伝』

北方 謙三 著／集英社 刊

¥600（第1巻／税別）

※本作は全19巻+別巻で出版されています。



最近、喜怒哀楽を感じてない方にお薦めの「村上春樹」集

●高口 恭弘（法学部学生）

本作は「シドニーのグリーン・ストリート」「カンガルー日和」「鏡」「とんがり屋の盛衰」「かいつぶり」「かえるくん、東京を救う」など 17 作品から成り立つ短編小説集。心の底からゾットするような話から、ドキドキハラハラしながら最後までオチが見えない話まで、幅広いジャンルの作品を楽しめます。

中でも私のお薦めは「踊る小人」。“1 匹の象から 5 匹の象を作るという不思議な世界で「小人が踊る」夢”の中、主人公は「将来あなたは森に住み、私と一緒に踊り続ける」と意味ありげな言葉を告げられて目が覚め、再び日常の生活を送る中で 1 人の女性に恋に落ち…というあらすじ。ですが、この話のオチには私自身、ものすごくゾットさせられたのでお読みになる方は心してください。もちろん、ゾットする話だけでなく感動的な話もありますので、最近、喜怒哀楽を感じてない方にお薦めします。ぜひ皆さん読んでください。

『はじめての文学 村上春樹』

村上 春樹 著／文藝春秋 刊

¥1,238（税別）



ヒットしたテレビドラマと 比べながら読むのも楽しい作品

●三村 良彦（法学部学生）

本作は「人生はつまらない。この世の全てはゲームだ」と考え、たいした努力をせずとも何でもこなせる文武両道な人気者の主人公・桐谷修二が、新学期でもない時期に、突然、転校してきた小谷信太を人気者にするという物語。

信太は、肥満体、メガネ、ワカメヘア…と、見た目はいじめられて転校して来たと思えるほどで、修二も初めは相手にしていなかったけれど、少しずつ興味を持つようになり、「ゲーム」としてプロデュースすることになりますが、いじめられっ子が人気者になっていく過程が見所です。また、この作品は修二の喋り口調で描かれているので、本を読むのが苦手な人でも読みやすい作品だと思います。テレビドラマとしても知られている作品ですが、ドラマと小説では、内容やエンディングが全く異なるので、ドラマのストーリーと比べながら読むのも楽しいと思います。

『野ブタ。をプロデュース』

白岩 玄 著／河出書房新社 刊

¥1,000（税別）



何故こんなにも人を愛せるのか？ 穏やかで優しい気持ちになれる一冊

●中嶋 理沙（法学部学生）

主人公・希久夫の妻、美奈子是不慮の事故にあって亡くなるのですが、その妻が愛した愛車「グレース」のカーナビに残された、愛する夫へのメッセージに涙すること間違いなしです。また、妻が残した思いを拾い集める希久夫の美奈子への思い。何故こんなにも人を愛せるのか？この二人が本当にお互いを思いやり、愛しあっていて、スゴく素敵でした。読んだ後には穏やかで優しい気持ちになれるでしょう。

ちなみに、愛車「グレース」は、HONDA のエスハチ（S800）という 1960 年代の車に付けられた愛称です。HONDA の創設者である本田宗一郎さんの言葉でグレースと言えば、この方「グレース・ケリー」のエピソードなど間に挟まれていて、いい感じで物語に深みと重みを作っています。景色も美しく、モナコの情景が浮かんだり、パリの情景も浮かんできます。500 ページと長編ですが、じっくり時間をかけて読みたい一冊です。いい読後感がたっぷりと味わえます。

『グレース』
源 孝志 著／文芸社 刊
¥1,600(税別)



私が読者の楽しさを 初めて知った作家の代表作

●久野 裕加（法学部学生）

「ボッコちゃん」——。本作は没後 15 年を経た今でも、日本の SF 界にその名を遺す作家・星新一の代表作である。

彼がなぜこれほどまでに有名なのかというと、彼はそれまで最も短いとされていた短編よりも、さらに短いショートショートという新しい分野を生み出したのだ。そして彼は、71 年という生涯の中で 1001 編もの作品を遺したことで知られている。また、私事ではあるが「ボッコちゃん」、そして「星新一」は、それまで本など読書感想文を書くとき以外、本を読もうともしなかった私を劇的に変化させた。

私はこの作品、そして星新一に出会えたおかげで、本を読むことの楽しさ、面白さに気づくことができた。今、どんな本を読んだらよいのか分からない、読書の楽しさが分からないという人はぜひ読んでみてください。そして、どうぞ星新一の作品を通して、読書の楽しさや面白さを知ってください。

『ボッコちゃん』
星 新一 著／新潮社 刊
¥476(税別)



自分自身と向き合いたい時に ぜひ読んでほしい

●高橋 尚平（法学部学生）

「死んじゃってもいいかな」なんて考えが頭の中に浮かぶ主人公・永田一雄には息子がいる。しかし、学校でいじめを受けた息子は家庭内暴力に走り、引き籠っている。さらに、妻からは離婚を迫られ、会社からはリストラに遭い、父親は末期のガン…と、人生のどん底にいた。そんな中、ある雨の夜に事故死した親子と出会い、二人と一緒にワゴンで過去の世界にタイムスリップ。そこで過去の自分、妻、そして父親に会い、自分自身を見直していくという物語である。

本作からは人と人の交わりとはどのようなものなのか、本当に大切なものは何なのかということを教えてもらいました。中でも、「何も知らない方がよいのか、知ってても何もできない方がいいのか」という言葉に衝撃を受けました。自分は何のために、誰のために生きているのか、こんな自分でいいのか…。うまくは言えませんが、自分自身と向き合いたい時に、ぜひ読んで欲しい。

『流星ワゴン』

重松 清 著／講談社 刊

¥695（税別）



家族の大切さについて 改めて考えさせられたヒット作

●可村 優太（法学部学生）

「ガリレオ」シリーズで有名になった東野圭吾の作品で、2006年に映画化もされた。主人公は身寄りのない兄弟。兄・剛志は弟を大学進学させようと懸命に働くも、身体を壊して職を失う。それでも諦められない剛志はやむなく強盗殺人を犯してしまう。その後、弟の直貴は「殺人犯の弟」として、様々な場面で厳しいバッシングや社会的差別を受けながら生きていた。そんな直貴のもとに、月に一度、服役中の剛志から手紙が届く。しかし、そんな兄の気持ちでさえ、直貴にとっては、結果的に苦しめられることに…。

そんな境遇の人を責めるのは間違っているとは思いますが、もし身近にそんな人がいても普通に接することができるだろうか。ましてや、自分の子どもがそんな人を結婚相手に選んだら素直に喜べないかもしれない。しかしながらこの作品からは「家族を悲しませたり、苦しめたりしてはいけない」と思うと同時に、家族の大切さについて改めて考えさせられた。

『手紙』

東野 圭吾 著／文藝春秋 刊

¥590（税別）



思春期特有の感情や雰囲気 “あの頃”を思い出させてくれる

●佐渡島 麻愉（文学部学生）

「私を、殺してくれない？」——中学 2 年生の「リア充」少女は、同じクラスの「昆虫系」男子に殺人事件を依頼した。自分のことを理解してくれない親にも面倒くさい友人関係にも疲れた少女が、自分の殺人事件を自分好みに、少年とふたりで「悲劇のノート」に書き込んでいく。「特別な存在」になるために。

決して軽い内容でないのに、さくさくと読み進められる。読み終わった時には爽やかさすらあった。何処か後ろ暗いものに憧れる不安定さ、思春期特有の感情や雰囲気は、中二病と言ってしまうまでもだが、それ以上に複雑で、懐かしさを感じる。「若さは恥の記憶の連続」。あの頃をちょっと思い出してみないだろうか？

『オーダーメイド殺人クラブ』

辻村 深月 著／集英社 刊

¥1,600（税別）



とても奇妙な話だけど すぐに引き込まれてしまう

●玉田 顕士（法学部学生）

2009 年に映画化された『鴨川ホルモー』の原作です。京都大学に入学した主人公・安部はサークル「京大青竜会」の親睦コンパで、ある女性に一目惚れし、入会してしまいます。初めはレクリエーションサークルと思っていたのが、実は鬼や式神を使って争う謎の競技「ホルモー」で戦うために集められたことを知らされ、しかし安部は一目惚れした女性が、同じ青竜会の中で最も忌み嫌う男・芦屋と交際していることを知り、芦屋と別のチームを組んでホルモーを続行することに。とても奇妙な話で、恋愛あり、涙あり…登場人物が皆ユニークで、ホルモーに関係する儀式や鬼の言葉「鬼語」には大いに笑いました。読み易く、すぐに引き込まれる作品です。

『鴨川ホルモー』

万城目 学 著／産業編集センター 刊

¥1,200（税別）



生きている時間を大切に することを教えられました

●高村 誠（法学部学生）

皆さんは明日死ぬとなったらどうしますか？ この本の主人公・真樹夫は、ある朝起きると、テレビニュースで24時間後に巨大隕石が落下し、地球が滅亡することを知ります。社会が混乱し、人々が理性を失う中、彼は最期の望みとして、元妻が住む九州に向かいます。

この本を読んで去来したのは、「3・11」のことでした。一瞬にして町を荒地にした大地震、映画のような巨大津波の映像を目にした私は、この本を読んで「生きること」について改めて考えさせられました。最期の時、後悔なく死ぬには、生きている時間を大切にすること、何かを成し遂げるのに頑張ることの大切さ、そして1分1秒の重みを気づかせてくれました。

『地球最後の24時間』

貞次 シュウ 著／スターツ出版 刊

¥1,000（税別）



成功する組織とは何かを 分かりやすく描いたベストセラー

●矢野 輝（法学部学生）

ピーター・F・ドラッカー（1909年・オーストリア生）は著作『マネジメント』（1973年）で、組織とは何か、組織を円滑に運営するにはどうすればいいかを著した。同書を読んだ岩崎夏海は、もし高校野球の女子マネージャーが、この本通りにマネジメントし、野球部が強くなったらどうなるかを考え『もしドラ』を書いた。私がこの本を読んで心に残ったのは「相手の話を聞く」ということ。企業（野球部）は、顧客（観客／野球関係者）が求めていることは何かを常に考えなければならない。ゆえに、野球部のすべきことは「顧客に感動を与えること」と結論づけた。200万部以上を記録したベストセラーであり、TVアニメや映画化もされた一作。

『もし高校野球の女子マネージャーが
ドラッカーの「マネジメント」を読んだら』

岩崎 夏海 著／ダイヤモンド社 刊

¥1,600（税別）



自分の尺度で道を拓く生き方の 大切さに気づかされた

●吉木 裕信（文学部学生）

『水曜どうでしょう』は、ローカル制作ながら、海外でも放送されるほどの伝説的なバラエティー番組だ。この本には、同番組のディレクター・藤村忠寿氏が考える「ラクに生きていく方法」「仕事との向き合い方」「生き方」「学生時代のこと」「番組のこと」などについて書いてある。

我々は普段、常識から外れないよう気を遣う場面が多いが、常識こそが人を狭いところへ追いやり、生きる上でストレスになっているのだと著者は考える。つまり、常識に縛られた道を行くのではなく、自分の尺度で拓いた道をいくほうがラクだ、と。社会に出て仕事をして生きていく上での考え方や、自分の生き方についても考えさせられる一冊。

『けもの道』

藤村 忠寿 著／メディアファクトリー 刊
¥1,100（税別）



裁判員が裁くことの難しさを 実感させられた一冊

●深川 良介（法学部学生）

本書には裁判員制度の下、裁判員が裁判で裁くことの難しさが描かれています。その例として挙げられた事件をひとつ紹介します。1999年11月、東京・文京区の幼稚園で、息子を迎えに来た母親の連れていた2歳の娘が姿を消し、警察が公開捜査に踏み切った後、この幼女を殺害して死体を静岡の実家の庭に埋めたとして、息子の同級生の母親が自首して来たというものです。本件は、被告人と被害者の母とのトラブルが原因でした。動機を問われると、子どもがいなくなれば被害者の母親と顔を合わせなくて済むからと答えたそうです。被告人はなぜここまで追い詰められたのか？そして被告人に下された判決について興味のある方は、ぜひ読んでみてください。

『裁判員Xの悲劇：最後に裁かれるのは誰か』

青沼 陽一郎 著／講談社 刊
¥1,500（税別）



中東ヨルダンで起きている 野蛮な因習のことを知ってください

●小林 瑞紀（法学部学生）

本当にこんなことがあるのだろうかという衝撃を受けました。中東ヨルダンでは今もなお、一族の名誉を汚した娘を殺害する「名誉の殺人」が行われ、手を下した男性は英雄として賞賛されるという野蛮な因習が続いているというのです。

筆者もその犠牲となった一人で、義理の弟の手で生きながら火に焼かれるという傷を負っています。女性を奴隷としか扱わない風習のせいで命を落とす人や負傷する人が大勢いるのです。私たちにはそのような実態に対して非難の声を上げることしかできませんが、そうすることで、少しでもその因習をなくす助けになるのではないのでしょうか。ぜひ本書を手にとって、この事実を知って欲しいです。

『生きながら火に焼かれて』

スアド 著 松本 百合子 訳／ソニー・マガジズ 刊
¥1,600（税別）



ここまでしてくれる先生が いたことに驚きました

●川原 拳人（法学部学生）

皆さんは「夜回り先生」と呼ばれる人を知っていますか。彼は定時制高校での授業が終わると、深夜の繁華街や公園に出向き、街をウロウロしている若者たちへの薬をはじめとする様々な誘惑から守ろうとしているのです。そんな活動の中で彼は様々な危険にも遭遇してきました。中でも一番驚いたのは、ある少年を暴力団から抜けさせるため、落とし前として自分の指を切り落としたことです。若者のことを考えてとはいえ、ここまでしてくれる先生が世の中にいるのでしょうか。私はそんな夜回り先生を凄いと思うし、心から尊敬します。このような人になりたいと本当に思います。とても考えさせられる本なので、ぜひ読んでみてください。

『夜回り先生』

水谷 修 著／サンクチュアリ出版 刊
¥1,400（税別）



夢を与える仕事に就くのに必要なこと、 そして勇気をもらいました

●田中 敦拓（法学部学生）

あなたは高島導宏さんを知っていますか？彼はプロ野球選手として活躍した後、28歳で打撃コーチに就任。それから約30年間で7球団の打撃コーチを務め、30人以上のタイトルホルダーを育て上げました。ところが、その伝説の打撃コーチは50代半ばで一念発起。通信教育で勉強を始め、5年かけて59歳で高校教師に。そこで高校野球の聖地「甲子園」を目指し始めた矢先、癌のために60歳で亡くなりました。高島さんは、プロ野球選手だけでなく高校生にも夢を与える人だと思いました。そして、人に夢を与える仕事に就くには努力も必要ということを実感しました。私も高島さんのような人になりたいと思ったと同時に、勇気をもらいました。

『甲子園への遺言：

伝説のコーチ高島導宏の生涯』

門田 隆将 著／講談社 刊

¥1,700（税別）



チベットをとりまく様々なことを 知るには絶好の一冊

●仮屋崎 康太（法学部学生）

チベット問題とは何か？チベットとはどういう国家で、どんな文明を持つ国なのか？ダライ・ラマとはどんな存在なのか？どうして死者が多く出るのか？…。全7章で構成された本書を読めば、チベットの文化や風習、歴史など、何も知らない人でも、チベットに関することを知ることができるでしょう。

そもそもチベット問題は、早急に解決しなければならない人類の課題のひとつです。日本でもネットなどを通じてチベット問題への関心が高まり「Free Tibet」運動が活発になりつつあります。チベットについて知るためにもまずは本書を読み、問題の理解を深めることをおすすめします。

『日本人が知らなかった

チベットの真実』

ペマ・ギャルポ 著／海竜社 刊

¥1,600（税別）



自分たちの未来を 人任せにしないために

●辻本 尚弥（健康・スポーツ科学センター）

東日本大震災とその後の原子力発電所の事故は、我々にとっての「望むべき未来」は「自身」が考えるべきだったことを痛感させられた。これまで我々は、原発という科学技術の固まりを一部の人々に任せきりで、安全で豊かな未来を支えてくれるだろうと高をくくっていた。著者は、現代社会を支える科学や科学技術は、もはや「夢と希望」だけではなく、「社会問題」でもあると記している。本書には、我々がその科学や科学技術とどのように関わっていけばよいのか、歴史的な事実を紹介しつつ、関わり方の視点を提示している。自分達の未来を人任せにしないために、何をどう考えるのかの出発点になる本です。少し専門的ですが、ぜひ読んでみてください。

『科学は誰のものか：

社会の側から問い直す』

平川 秀幸 著／日本放送出版協会 刊
¥740（税別）



前向きになりたい時に 読んでほしい名言の数々

●江口 真子（法学部学生）

「秘密」を題材に、偉人たちの名言や考え方を集めた本書は、何かに失敗して落ち込んだ時や自信がなくなった時など、前向きになりたい時に読んで欲しい一冊です。著者自身、人生最大の危機を迎えた時、これらの「秘密」を知って乗り越えたそうです。本書中、私の心に最も残っているのは、マイケル・ベルナルド・ベックウィズの「あなたという存在は、99%は透明で見えません。しかも解る事もできません」という言葉。最初、意味が分かりませんでした。しかし、マイケルは人と神は類似したもので、人は尽きることのない可能性を秘めた無限の「場」とであると語っていると知り、だから麻薬にもうち勝てたと思うと、その偉大さが伝わってきました。

『ザ・シークレット』

ロンダ・バーン 著 山川 紘矢 訳／
角川書店 刊 ¥1,800（税別）



壁にぶつかっている人に
読んでほしい、熱い男の生き様
●高沢 大成（法学部学生）

2010年のFIFAワールドカップにも出場したプロサッカー選手・長友佑都選手が、25年間生きてきてその都度、考えたことや思ったことを記した本書。彼がなぜ、世界のトップクラスクラブ、インテル・ミラノに所属できているかが分かる本です。決して恵まれた身体でない彼が、世界のピッチに立つためにしてきたことは、人並み外れた意志の強さと、想像を絶する努力。この二つがあれば、どんな困難にも打ち勝ち、夢を掴める。それを支える「意志あるところ道はできる」「努力は裏切らない」という二つの言葉からも、今の日本を元気にする熱い男の生き様が分かる。壁にぶつかっている人に贈りたい一冊です。ぜひ読んでみてください。

『日本男児』

長友 佑都 著／ポプラ社 刊

¥1,333（税別）



社会の見方が変わる！
ドラッカーの『マネジメント』入門書
●樋口 葵（法学部学生）

高校野球の女子マネージャーが本書を応用して自校の野球部を甲子園に行かせるまでを描いた『もしドラ』をはじめ、雑誌などでも話題を集めるドラッカーの代表作の入門書。

「組織に高度な成果を挙げさせることがマネジメントであり、これこそが我らを全体主義から守り、自由と尊厳を守る唯一の方策」「マネジメントとは『使命』『方法』『戦略』」と説く本書。これを順番に読むのもよし、目的に応じて読みたいところだけを読むこともできる。いきなり本書ではハードルが高いという方には、図解やストーリー性のある『もしドラ』を読んでから本書に進んでもいいと思う。これまでとは違う、社会の見方ができるはずだ。

『マネジメント：

基本と原則「エッセンシャル版』

P.F.ドラッカー 著 上田 惇生 編訳／

ダイヤモンド社 刊 ¥2,000（税別）



数奇な人生を歩んだ戦国武将たちの 史実上の行動を知る

●馬場 美保（商学部学生）

本書は「戦国時代の武将の名言を借りた現代人のための自己啓発本」というよりは、「各武将の人生の概略」であり、名言そのものは添え物のような印象を受けます。ですが、数奇な人生の中、どのような状況下でその言葉が発せられたのかが分かり易く書かれ、武将たちの人生を肉厚なものとして伝えてくれます。日本史が好きで戦国時代に浪漫を感じる方なら琴線に触れるものがあると思いますし、歴史小説を読む前に予備知識を得るため、あるいはそういったフィクションを通じて武将の人生に触れた後で、史実上ではその武将がどのような行動を取っていたのかを知る、という読み方をしても面白いかもしれません。

『戦国武将の名言に学ぶ』

武田 鏡村 著／創元社 刊

¥1,500（税別）



誰かに何かを伝えるために 必要な考え方と技術を凝縮

●吉開 香織（法学部学生）

コミュニケーション力を養うための考え方や具体例を、八つの章に分けてまとめられた本書。「伝える力」を培うことの大切さと難しさ（第一章）に始まり、読む者を惹きつける文章を書くための仕掛け（第二章）、コミュニケーションをとる際に実は必要な危機管理意識（第三章）、ビジネス文書の基本（第四章）、文章力アップの極意（第五章）、より分かりやすく伝えるための表現や言葉の使い方などのテクニック（第六章／第七章）、上質なインプットの重要性について（第八章）と、そのどれもが実践的である。しかし同時に、本書を読んだ私自身は、「伝える力」を高めるためには、テクニックだけでなく人間性も高める必要があると痛感した。

『伝える力：

「話す」「書く」「聞く」能力が

仕事を変える』

池上 彰 著／PHP 研究所 刊

¥840（税別）



この先日本人に必要な英語とは？
世間の風潮に異を唱えた一冊
●安藤 裕介（文学部）

「コミュニケーション英語」が重視される今日、日本人はこの先どのように英語の運用能力を高めていくべきか、学校の英語教育はどうあるべきかなどについて、改めて考えてみようとしたのが本書である。筆者は「英語を話せる力＝英語コミュニケーション能力」という風潮に対し、立場を異にしている。例えば、文部科学省が新指導要領で打ち出した「高校英語の授業は英語で行う」方針に疑義を呈し、高校までの学校英語では、文法学習と「読む力」の涵養に力を注ぐべき、と。もちろん、筆者は「話す」力が不要だとは言っていない。「読み書き」を軽視することを良くないと言っているのである。様々な意見があるだろう。まずは本書を読むことを勧める。

『英語と日本語のあいだ』

菅原 克也 著／講談社 刊

¥740（税別）



「不良」が組織に良い変化を
もたらすロジックが明らかに
●奥井 秀樹（商学部）

『サラリーマン金太郎』や『GTO』に代表されるように、世間的には「不良」とされる主人公が組織に乗り込み、様々な難題を解決するという話が数多く作られています。我々が日々どうにもならないと感じる現実を、型破りな主人公が思いもよらないやり方で打ち破るストーリーは痛快です。

しかし、そうした話は現実に存在するものでしょうか？この本では現実にあったそうした事例を紹介し、事例の分析を通じて「不良」が組織に良い変化をもたらすロジックを明らかにしています。ドラマのように「不良」の大活躍があり得るということを、経営学的視点から真剣に語った本書はとても魅力的です。読めばきっとあなたの見識を深めてくれることでしょう。

『「不良」社員が会社を伸ばす』

太田 肇 著／東洋経済新報社 刊

¥1,300（税別）



本に関わるすべてが 好きな人にはもってこいの一冊

●辻本 尚弥（健康・スポーツ科学センター）

本書は、クラフト・エヴィング商會(といっても一組の夫婦です)によって書かれている。私は彼らの本が好きで、数冊が「本棚」にある。本や雑誌中毒で、手元に読むものがなくなると不安になる私は、本書を読んで改めて「本棚」も好きだということに気づかされた。少しでも時間があると、必ず「本屋さん」に行ってしまうのも、「本好き」だけでなく「本棚好き」でもあったからだと妙に納得した。この商會の本は、実際にありそうでないものを、まるであるかのようにまとめたものが多かったが、本書では掲載されている写真の本は、ほぼ実際に発行されているものであり、それらが一風変わったテーマで本棚としてまとめられ、解説されている。「ほほう」とか「うーん、こう来たか」「やっぱりね」と、つぶやきながら読んでしまう一冊。「本」に関わるすべてが好きな人にはもってこいです。

『おかしな本棚』

クラフト・エヴィング商會 著／
朝日新聞出版 刊 ¥1,900（税別）



現代日本の「医療現場」「福祉・社会保険制度」を読み解く5冊

今の社会を『身体性』から眺めた時に、最も分かりやすい時事問題は、医療に関わる『身体性』ではないかと思う（その典型が移植医療である）。この『身体性』が『こころ』にも及ぶことは、言うまでもない。医療の対象は『からだ』そのものだけでなく『こころ』も含むが、『こころ』の場も身体にある。医療の対象となって（つまり、病気や受傷して）、改めて自覚しがちな『身体性』だが、前提として医療の環境とこれから、特に今を考える本について、一連のものを紹介したい。

（満園 良一／健康・スポーツ科学センター）

なぜ「医療過誤」は起きるのか？ 現場の実情がよく分かる2冊

3年ほど前、様々な新聞を賑わした医療事故のルポルタージュが『ルポ医療事故』である。これを読み、改めて個々の医療事故が鮮明によみがえり、当時、メディア報道だけでは分からなかった部分を反芻しながら追った。この時の状況が、個々の医療事故の反省から、果たしてどれほど変わったのか、少なくとも変わろうとしているのか、正直、分からない。その時、まさに『消費者庁』の設置が決まったと言う知らせは「第8章；遺族の執念ーパロマ社製ガス湯沸し器 CO 中毒事故」における1つの解決だったことを改めて思い出させる。それにしても、4章までの医療事故は、何で？こんなことを？の連続であり、人間は過ちをおかす存在であることと、絶対の否定をともに痛感させられる。この先の絶対は、取り返しがつかないと言う意味で「死」のみであると思う（が、そうならないことは当然である）。

常に問題になる医療現場の過酷さは、これも常に「医療過誤」と背中合わせである。この2つは、医療現場の過酷さを垣間見るルポとも読めるし、これも従来から問題視される「医療過誤」における医療体質のルポとも読める。が、はっきりしていることは事実の積み重ねとともに、情報開示のレベルを上げていくことに尽きると思う。その中で医療を受ける側の意識も変わらないと、医療現場の過酷さと「医療過誤」の問題はなくなる（だろう）。この点、『医療の限界』は現場から医療の現状（と言うより過酷さ）を訴えたものであり、当事者であるがうえに、臨場感も伝わる。長年にわたり地域医療を担ってきた久留米大学だけに、身近に感じられた内容だった。一人でも多く読んで欲しい。

『ルポ医療事故』

出河 雅彦 著／朝日新聞出版 刊
¥860（税別）

『医療の限界』

小松 秀樹 著／新潮社 刊
¥700（税別）

すでに 15 年以上前から言われていた日本の「保健・医療・福祉」問題

次に紹介する『医療・保険・福祉改革のヒント』が書かれたのは 1997 年であるが、それ以前から医療・保険・福祉は改革すべきものとして、存在していたことになる。最近、本書を読んだ私にとっては、少なくともこの 10 年間、何が問題で、何をどうすべきか、など具体的に変わっていないように思えてならない（ので、この本は面白い）。もっとも、介護保険などの制度設計は本書にもあるように福祉の現実として変わった。が、介護保険の現実は厳しい（が、これは制度設計した厚労省の問題と思えるものの、その確証は個人的に不十分かな？）。

一方で、「第 5 章 老人の民族移動」に例示された市町村の「保健・医療・福祉」は、拍車のかかる高齢者の増加にとって参考になる。この中で紹介された市町村が、今、どうなっているか？興味深い。著者の数多い医療・福祉関連書籍で、これは今後も変わらない貴重な処方箋になるだろうと思う。ちなみに、著者による『誰も書かなかった日本医師会』（2008 年／ちくま文庫刊／¥800〈税別〉）も、医療行政をはじめ、医療全般を考察する上で欠かせない 1 冊である。

『医療・保険・福祉改革のヒント』
水野 肇 著／中央公論社 刊
¥660（税別）

経済システムの視点から日本の医療と福祉を論ずると？

さて、高齢化が進展しつつある今、医療と福祉が喫緊の課題であることを否定できる人は多くはないはずである。そのこと自体、必ずしも医療と福祉のそれぞれに専門家と称する人でなくとも、歴史的、社会的な趨勢として感じられる（と思うのは私だけ？）。

このような状況を読み解くには『医療と福祉の経済システム』がおすすだ。同書は、一貫して経済システムの視点から医療と福祉を論じ、社会保険制度を含む様々な現時点の問題から制度を論じ、将来を見据える。日本の医療費が決して高くはないと言う点は、昨今、やっと（国際比較など）具体的なデータとともに語られるようになったと思うが、将来的に増えていかざる側面を抱える医療費は、その膨大な経費の構造とともに、これまで十分に語られてこなかった。医療と福祉も負担を考えれば、経済システムで語られることは、今後、避けられないだろう。いずれにせよ、医療の教育・研究にまで踏み込みながらの提言は面白いし、示唆に富む。そのキーワードは情報公開であり、大学にこそ該当するとも思える。一般的に、素人が情報公開に伴って混乱すると言う論調は情報公開の反論としてよく聞く。情報伝達は 1 対 1 で行われる以上に、ある種のスペクトルのように何段階もの過程を経てなされるが、その過程にいるべき人を育てられるか、これも大学の役割ではないか？と問われているように、最後は感じてしまった。

『医療と福祉の経済システム』
西村 周三 著／筑摩書房 刊
¥660（税別）

世界の医療改革に先鞭をつけたイギリスの制度を紐解く

そして昨今、日米ともに政権が変わって、医療改革がそれなりに叫ばれている。その医療改革に先鞭をつけ、この約10年にわたって模索（改革と再生）してきたイギリスについて綴ったのが『公平・無料・国営を貫く英国の医療改革』。税による国営モデルを維持するイギリスの現状報告は、NHS（国民保健サービス）なる制度の下に、タイトル通り、公平・無料を貫き、今も大胆な改革に邁進していることを窺わせる。それにしても、国民に医療の内容を可視化する試みは、徹底した情報公開で「ここまでやるんだ？」という驚きを隠せなかった。翻って、今の日本では難しい…と思ってしまうが、参考になることは間違いない。もっとも、イギリスの強い政治主導は、この日本には期待できないが、ボトム・アップで自ら取り組むことはできると思う（つまり、大学からと言う意味）。かかりつけ医（PT）の存在やPCT（地域における医療マネージャー的な組織）の存在などは面白いと同時に、日本でも似たようなものがある（と思うので、中核都市たる久留米市もボトム・アップで可能かもしれない）。

イギリスの状況は、大幅な医療への資源導入が必ずしも医療のみに限らないことである。つまり、予防と健康へのインセンティブは保健政策に重なるし、福祉への連動も欠いていない。当然、医療、保健、福祉はそれぞれに連動しながら部分的に重なり、そうなるこそ個々の効率も効果も高まるはずだからである。が、必ずしも（というか残念ながら？）我が国の現実は、そうになっていない。果たして日本がこれから向かう方向は、社会保険モデルをどう維持するのか、改革していくのか？正直、不安である。

『公平・無料・国営を貫く
英国の医療改革』
竹内 和久・竹之下 泰志 著／
集英社 刊 ¥680（税別）

著者名・作品名 などから本を探したい!

御井図書館Webサイトでは、著者名や作品名などの断片情報から、その作品が収録された作品集や文学全集などといった詳細情報を調べることもできます

検索例 「ミステリー作家・乙（おついち）が出版した書籍」を「日外e-レファレンス・ライブラリー」で調べます

1 「日外e-レファレンス・ライブラリー」をクリックする

2 「LOGIN」ボタンをクリック

3 キーワード＝「乙」と入力し、すぐ下の「現代日本文学全集総覧」「短編小説作品名目録」「日本文学研究文献要覧／古典・現代」の中で検索を外したい検索エンジンがあれば、左のチェックを外し、「検索」ボタンをクリック

4 それぞれの項目に該当件数が表示されるので、さらに調べたい検索エンジンの「一覧表示」をクリック

5 検索結果が一覧表示される。さらに調べたい作品名をクリック

6 該当作品に関する詳細情報(収録本/出版年/出版社名など)が表示される

その他の学術研究用ツール
日外e-レファレンス・ライブラリー
Japan Knowledge+ / Google Scholar

インターネットで利用できるデジタル蔵書
日外e-レファレンス・ライブラリー

LOGIN

おわりに…
ここで紹介した以外にも、御井図書館Webサイトでは、様々な専門分野の情報を検索することができます。「検索の達人」になれば、学生生活はもちろん、社会人になってからも役立つ場面が多いですよ

辞書や事典で 調べ物をしたい!

御井図書館Webサイトには百科事典、国語辞典、歴史事典、人名辞典、英和・和英辞典などを同時に検索し、該当記事を読むことができる機能があります。大変便利な機能です

検索例 「シオニズム」の意味を「Japan Knowledge+」で調べます

1 「Japan Knowledge+」をクリックし、「ログイン」する

2 基本検索タグの入力欄に「シオニズム」と入力し「検索」ボタンをクリック

3 さまざまな辞書や辞典に掲載された「シオニズム」に関する記事のヘッドラインが表示されるので、その中から読みたいと思う記事の「続きを読む」をクリック

4 検索結果(該当記事)に関する記事の全文が表示されます

その他の学術研究用ツール
日外e-レファレンス・ライブラリー
Japan Knowledge+ / Google Scholar

基本検索タグの入力欄に「シオニズム」と入力し「検索」ボタンをクリック

さまざまな辞書や辞典に掲載された「シオニズム」に関する記事のヘッドラインが表示されるので、その中から読みたいと思う記事の「続きを読む」をクリック

検索結果(該当記事)に関する記事の全文が表示されます

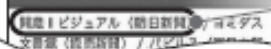
Point
「Japan Knowledge+」は、各種辞書や事典をはじめ、収録コンテンツ40以上、総項目数218万、総数約16億文字におよぶオンライン・データベース、学内限定で検索可能です

新聞記事 を読みたい!

徳井図書館Webサイトでは「聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞)」
「ヨミダス文書館(読売新聞)」「パピルス(西日本新聞)」などを
通して各社の新聞記事を過去から現在までまとめて検索し、
読むことができます

検索例 「バルセロナオリンピック(1992年7月25日～8月9日)」に
関する新聞記事を「聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞)」で調べます

新聞の記事・写真を見る



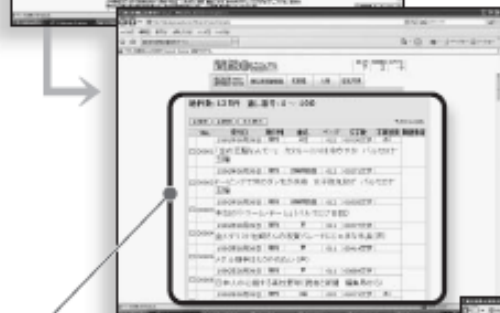
1 「聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞)」をクリック



2 検索モード＝「シンプル検索」を選択
キーワード＝「オリンピック」と入力
発行日＝「1992年7月25日」から
「1992年8月9日」と入力
リスト表示＝件数「100」を選択
順序「新しい順」を選択

Point

「AND検索」＝キーワード追加／「OR
検索」＝複数キーワードを追加／
「NOT検索」＝削除ワード指定の
入力で、精度の高い検索が可能に
なります



3 検索結果(該当記事)が表示され
た中から、読みたいと思う「記事
タイトル」をクリック
※表示されない場合は②に戻り、
入力するキーワード等を工夫してください

4 検索結果(該当記事)に関する
記事本文が表示されます

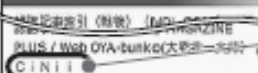


学術雑誌の 論文を探したい!

徳井図書館Webサイトでは、学術雑誌に掲載された論文を探すのに、
「CiNii(国立情報学研究所)」「MAGAZINE PLUS(日外アソシエ
ーツ)」「NDL-OPAC雑誌記事検索(国立国会図書館)」「Web OYA-
bunko(大宅社一文庫)」の4つのデータベースから検索できます

検索例 「日本の環境アセスメント」に関する論文を「CiNii(サイニイ)」で調べます

雑誌の論文・記事を探す



1 「CiNii」をクリック



2 入力欄に「日本 環境アセスメント」と入力し
「論文検索」ボタンをクリック



3 検索結果(該当論文)が表示され
た中から、読みたいと思う「記事
タイトル」をクリック

4 検索結果(該当論文)に
関する著者・掲載誌など
詳細情報が表示されます



Point

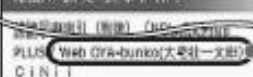
学術論文検索に強いのは「CiNii」
「MAGAZINE Plus」、特に「CiNii」は、
論文によっては本文まで読める
ものもあります

一般雑誌の記事を探したい!

御井図書館Webサイトでは、一般雑誌の記事を探すのに、「Web OYA-bunko(大宅社一文庫)」「MAGAZINE PLUS(日外アソシエーツ)」「NDL-OPAC雑誌記事検索(国立国会図書館)」「CINii(国立情報学研究所)」の4つのデータベースで検索できます

検索例 「ケータイ小説」に関する雑誌記事を「Web OYA-bunko」で調べます

雑誌の論文・記事を探す



1 「Web OYA-bunko(大宅社一文庫)」をクリック

2 「ログイン」ボタンを1回だけクリック



3 「簡単検索」を選び、フリーワード「ケータイ小説」と入力し、「結果表示件数」、データ出力順(「新しい順」もしくは「古い順」)を選択



Point

「AND検索」=キーワード追加
「NOT検索」=削除ワード指定を入力することで、より精度の高い検索が可能になります

4 検索結果(該当記事)が表示されます

Point

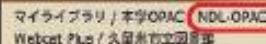
「OYA-bunko(大宅社一文庫)」は、プロのマスコミ人も頻繁に利用する雑誌の図書館。特に一般週刊誌・月刊誌・スポーツ誌、女性誌などの記事を資料として探したい時に力を発揮します

書籍を探したい!

御井図書館Webサイトでは、書籍類を探すのに、「NDL-OPAC図書(国立国会図書館)」「Webcat Plus(国立情報学研究所)」「久留米市立図書館」「本学OPAC」の4つのデータベースで検索することができます

検索例 「明治時代」に刊行された「野球」に関する書籍をNDL-OPAC図書(国立国会図書館)で調べます

図書・雑誌を図書館で探す



1 「NDL-OPAC」をクリック



2 「和図書」にチェックを入れ、タイトル=「野球」出版年=「1868~1912」と入力し、「検索」をクリック



3 アップされた全18件(18冊)の中から該当すると思う表示(書籍名/著者名)をクリック

4 書籍の詳細データがアップされます



Point

「NDL-OPAC図書」や「Webcat Plus」は、新旧の書籍をまとめて調べる際に大きな力を発揮します

巻末特集

学生生活を確実に充実させる第一歩、教えます！

図書館利用が楽しくなる「Webサイト」活用術

たとえば、ある課題に際して、書物・雑誌・データベース・ネットワーク・インターネットなどを駆使して情報を収集。そのプロセスを経て、書物のゆかしさ、奥深さを味わい、情報メディアを使いこなすスキルを身に付け、レポートや論文を仕上げたり、教養や知識を身につけたり、あるいは就職活動に役立てる場、それが図書館です。ここでは皆さんが御井図書館を楽しく使っていくための第一歩となる「図書館Webサイト」の見方と活用方法を紹介します。実際に図書館に足を運ぶ前に、しっかりとチェックしておきましょう。

10倍

まずはこのキーワードでアクセス！

御井図書館



トップページはこんな感じです！

- さらに！ 図書館活用の達人になるための七箇条
- ① 授業の空き時間など、ヒマな時間には図書館に行くクセをつける
 - ② 書架をゆっくり一周して、どんな本があるのか把握する(1~2カ月かける)
 - ③ 月に何度も雑誌コーナー・新聞コーナーに通う
 - ④ 読書初心者にはノウハウ本コーナー、新書コーナーのチェックから！
 - ⑤ OPAC(オンライン蔵書検索)の使い方をマスターする
 - ⑥ AVコーナーで資料映像をチェックする
 - ⑦ カウンターのスタッフにジャンジャン質問して仲良くする

- 書籍を探したい！**
久米大学御井図書館・医学図書館の他、国立国会図書館、国立情報学研究所、久米市立図書館の検索サービスが利用できる他、「マイライブラリ」から貸出延長手続きも行えます
← 詳しい検索方法は R20 へ
- 一般雑誌の記事を探したい！**
国立国会図書館、日外Webサービス、大宅社一文字、国立情報学研究所の検索サービスから雑誌記事の検索ができます
← 詳しい検索方法は R19 へ
- 学術雑誌の論文を探したい！**
国立国会図書館、日外Webサービス、大宅社一文字、国立情報学研究所の検索サービスから雑誌記事の検索ができます
← 詳しい検索方法は R18 へ
- 新聞記事を読みたい！**
朝日新聞、読売新聞、西日本新聞、読売新聞、神戸大学新聞、朝日フォトバンク、よみうり写真館の検索サービスから新聞記事の検索ができます
← 詳しい検索方法は R17 へ
- 辞書や事典で調べ物をしたい！**
日本国内で発行中の40以上の辞書や事典を網羅する「Japan Knowledge+」を通して、言葉の意味、外国語、人名、歴史など、さまざまなことを調べることが可能です
← 詳しい検索方法は R16 へ
- 著者名・作品名などから本を探したい！**
著者名や作品名などの影片情報から、その作品が収録された作品集や文学全集などといった詳細情報を調べることができる他、論文執筆支援サイト(RefWorks)や録音、法源、医学、経営、政治、科学の各専門分野の電子ジャーナルへもリンクしています(学内限定)
← 詳しい検索方法は R15 へ

お知らせ
図書館からのお知らせを速報します

カレンダー
2カ月分の開館日、閉館時間が分かります

図書館利用案内
貸出冊数と貸出期間、延滞時のペナルティが分かります

御井図書館ニュース
年3回、御井図書館のニュースを掲載します

知の玉手箱
過去の本誌に掲載されたブックレビューを読むことができます

館内平面図
御井図書館の各フロアの平面図で、書籍や資料の配置が分かります

ハーウッド文庫
会計学分野の貴重なコレクションについて紹介しています

学内専用
学内の学生、教職員向けの専用サービスです

久留米大学 御井図書館

有効活用のおすすめ

- ✓ 教養や思索を深めたい
- ✓ 課題・レポート・論文を仕上げたい
- ✓ 世の中のことをちゃんと知りたい
- ✓ 就職活動に役立つ情報を調べたい
- ✓ 人生を高めたい

…大学図書館は、そんな学生の皆さんの心強い味方です！

 学生生活を充実させるための第一歩が

「」から始まります！

図書館を使いこなすのは
大学生のあたりまえ。